

俺と大雪

book-fukunokami

俺と大雪

「俺も大雪とたたかうんだ」

俺は大雪に向かって叫んだ。

「わんわん、わんわんわん」

黒い犬、ブラッグドッグが来てくれた。

「さあ、わんちゃん、わんわん叫んでくれ」

「わんわんわん、わんわんわんわんわん」

黒い犬が叫ぶと、みるみる雪が溶けていった。

「いいぞ、わんちゃん、いいぞ、いいぞ」

俺は黒い犬を応援した。

「わんわんわんわん」

雪が溶けてく。

俺はスコップいやスコップを持って雪かきをした。

おや、こいつはスコップでいいのだろうか、スコップと呼ぶのだろうか、シャベルだ、おや、シャベルでいいのだろうか、シャベルと呼ぶのだろうか。

とにかくスプーンのでかいやつだ。

スプーンは間違いないだろう。

そんな事を考えてると黒い犬はあきれた。

そして黒い犬は去って行ってしまった。

「おい、おーい、待ってくれ、わんちゃん」

雪は、まだ残っていた。